

しまなみ農業だより 愛媛大学と連携した イノシシ被害 防止対策プロジェクト



近年上島町では、特に弓削島で先行し、2年遅れで佐島、岩城島が続く形でイノシシ被害が拡大しているのはご存知と思います。弓削島では早くから有志による捕獲隊が組織され、隊員の創意と工夫で最近では年間に100頭以上のイノシシを捕獲できるまでになりました。しかしながら一向に密度が下がる気配が見えません。陸地部ではとりあえず自分の集落周辺に近づかないような工夫をすれば事足りるのですが、弓削島のように人間の住環境とイノシシの生息域が接近しており、さらにイノシシの逃げ場が限られる環境では、陸地部とは違った工夫が必要と考えられます。

上島町では今年度より、愛媛大学と連携した鳥獣害防止プロジェクトが開始され、手始めに弓削島内の4地区に計8台の暗視カメラを設置し、イノシシの実際の活動状況を調査することとなりました。そうしたところ、早くも設置の当日夜よりイノシシの活動する姿を映像で捉えることができました。今回は、その中から特徴的なものを紹介します。

上弓削の砂防ダムのすぐ下にイノシシがぬ



(写真1)
ぬた場で水浴びするイノシシ



た場になっている湿地があります。ここは通り道になっているようで、1晩のうちに何度もイノシシが訪れる様子が撮影されました。(写真1)



(写真2)
かんきつ園でえさを探すイノシシ



先のぬた場のすぐ下の八朔園では、たびたび地面を掘り起こし、えさを探すイノシシの様子が撮影されました。(写真2) 問題なのは、この場所が民家のすぐ近くであることです。

上の写真の2頭は、1歳程度の(おそらく)姉妹で、仲が良いらしく一緒に行動する様子がたびたび撮影されています。

下の写真は、狩尾の果樹園内に出没した若いオス。オスはメスと違って普段は単独行動をしているようです。

引野の農道脇の崖(高さ約1.5m)に、イノシ



(写真3) 崖を駆け上がるイノシシ

シが出入り口に使用している場所がありました。ここにカメラを設置したところ、イノシシがいとも簡単に駆け上がる様子が撮影されました。(写真3) この場所は後に捕獲隊の方が

たくさんわなを仕掛けたのですが、イノシシに警戒されたらしく、この後はこの出入り口を使っているところは撮影されていません。

ここも動物の往来の激しいところで、夜間はイノシシ、タヌキ、飼い猫も徘徊しているようです。兄弟と思われるウリ坊3頭もよく撮影されており、1度だけですが、日中に徘徊するウリ坊が撮影されていました。



カメラの設置をご指導中の
愛媛大学農学部准教授
武山絵美先生

今回ご指導、ご協力いただいている武山先生は、農村環境整備が専門で、近年の農村環境を害する最大の要因が鳥獣である、という観点から鳥獣被害防止法を研究されています。

今年度中に、得られた成果を発表する場を町内で設け、農業者だけでなく一般住民の方も広くご参集いただき、鳥獣被害対策を、住民活動として盛り上げていきたいと考えておられます。